

# 1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成30年2月6日

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670103185
法人名	医療法人 慈恵会
事業所名	グループホーム ザ テラス西田橋 (2号館)
所在地	鹿児島県鹿児島市西田一丁目11番1号 (電話) 099 - 213 - 0091
自己評価作成日	平成30年2月6日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=46">http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=46</a>
-------------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	平成30年2月27日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点 (事業所記入)】

ホームの理念である「ゆっくり やさしく おだやかに」を毎日、朝礼時に職員全員で唱和し、理念を意識した介護を心がけています。利用者様のペースに合わせてゆっくりと、やさしい態度と言葉かけで、お互いがおだやかに過ごせるようなグループホームを目指しています。アットホームな雰囲気を大切にし、本当の家族のような関わりを実施しています。利用者様の個性やこだわりも大切にし、その人らしい生き方ができるよう様々な配慮を行っています。また、健康管理についても母体の土橋病院と連携を図り、密接した医療連携を図ることができます。医師の訪問診療により、ホームにしながら、診療や薬の処方を受ける事ができます。そして、同系列に老健施設があるため、そちらでのリハビリも行っています。健康と身体機能を維持することを常に意識し、認知症があっても元気に自分らしく生きられるよう支援しています。地域資源として、街中という事もあり商業施設への外出もしやすいです。また交通の便もよく遠方のご家族も面会しやすい環境にあります。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点 (評価機関記入)】

--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	理念にについて、フロアの各所に掲示し、朝礼時に全員で唱和している。そして、理念を常に意識したサービスを実践している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的に近所の散歩をしている。地域の夏祭りに参加、六月灯への参加、認知症カフェへの参加などを行い、地域との交流を図っている。		
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	運営推進会議などを通して、地域での認知症講習会などを提案している。依頼があれば積極的に取り組んでいきたい。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、ホームの行事や研修の報告を行うと共に、参加者の意見も頂いている。また、地域で困っていることについて意見をきき、情報を共有している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	運営推進会議や地域包括センター主催の城西交流会に参加し連携を図っている。また介護保険課や保護課との連携を図りサービスの提供を行っている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束について、事業所内で勉強会等を行い、職員の知識を養っている。身体的な抑制はもちろんのこと、声かけなどによる抑制なども注意している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止について事業所内で勉強会を行い、職員の知識を養っている。また、利用者の状態をよく観察し、ゆとりある職場環境を整備し、虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	権利擁護について事業所内で勉強会を行い、職員の知識を養っている。利用者を擁護する公的な制度を把握し、必要時には活用できるよう支援していきたい。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>入居時は契約書や重要事項の説明書を使用し、分かりやすく説明し、ご理解を得ている。改定の際は、家族会等で十分な説明を行い、ご理解を得ている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>年2回の家族会時、面会時、電話連絡時などに家族から意見、要望、質問など聞き取りを行っている。また、法人委員会によるアンケートなどを実施しご家族の意見を聞き、改善事項には迅速に努め、必要に応じて法人で協議し、運営に反映させている。</p>		
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>職員会議は毎回ほぼ全員参加出来ており、意見交換や提案の検討等を話し合っている。また、個人的な面談や相談も積極的に受け、業務に反映できるよう努めている。管理者の一存で判断できない場合は、事務長等に相談を行っている。</p>		
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>働きやすい職場環境をつくるために、職員の意見を反映させた業務マニュアルを作成している。各職員が興味を持っている研修への参加や、相談事をしやすい環境作りを行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>月1回の事業所内勉強会では担当を決めて実施したり、実習生に指導したりと、教える立場を経験することで、職員1人1人の知識を深めモチベーションの向上を図っている。外部研修は、人手不足もありなかなか参加できていない。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>外部研修になかなか参加できず、交流場が少ないが、3ヶ月に1度、地域包括センター主催の城西交流会に参加し、城西校区内の地域密着型サービス施設とも意見交換やネットワーク構築が出来ている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に面会を行い、担当ケアマネや家族、本人から要望や困りごとなどの聞き取りを行っている。表情や言葉遣いに気をつけ信頼関係が築けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の困りごとや不安なこと、要望を聞き取り、ケアプランや入所後の対応に反映させている。入所初期は、こまめな連絡を行い、状況を伝えている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所時のアセスメントで、ニーズを明確に捉え、優先的に支援が必要なものをケアプランに反映させている。主治医の変更を行う場合は、混乱の少ないように声かけを行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員には、利用者の生活の場であるという意識をもち、利用者それぞれの生活スタイルを重視するように指導している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族へは、定期的な広報誌や面会時に情報提供を行っている。また、面会時は本人と家族がゆっくり話せるように支援している。家族参加型の行事を企画し、ふれあいをもてるようにしている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	在宅時に交流のあった友人や美容室などの関わりを継続できるよう支援している。個別外出を企画し、それぞれ馴染みの場所や近くのお店に買い物等に行くことが出来た。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者それぞれの性格や、認知症の症状等を把握し、席位置の配慮等を行っている。レクリエーションや日々の生活の中で利用者同士が関わり合えるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	当施設での対応が困難になった場合、次の施設や病院を探し、繋げるところまで責任をもって行っている。入院後も状況確認などを行い、相談を受けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人とのコミュニケーションを通して、希望や意向を把握している。困難な場合は、家族などからの情報や表情、言動からくみ取り、本人の気持ちを代弁しケアプランに反映させている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に、本人や家族から生活歴や性格、こだわりなどをアセスメントしている。利用開始後も情報収集をし、サービスを行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者それぞれの生活スタイルを尊重し認知症や障害があっても、本人の持っている力を活用し、自立に向けた支援を行っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン作成や更新前には、本人や家族に意向を確認している。サービス内容については定期的なモニタリング、職員会議等での情報交換を行い実施状況を把握している。6ヶ月毎に評価を行い、支援の見直しを行っている。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに基づき、サービス提供の実施状況を記録している。利用者の言動や表情等記録をし、職員間で共有が必要な事は別に申し送りノートに記入し情報共有をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	毎月、外出や行事などを企画、実施している。各利用者ごとに担当職員を決め、個別の外出支援行っている。家族との外出等も随時受け入れており、柔軟なサービス提供ができています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアセンターに登録し、行事などでの介護ボランティアの活用や、通院時などでは、福祉タクシーを利用し、地域の資源を活用し安全なサービス提供を行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の同意の上、利用者の殆どは土橋病院が主治医となっている。訪問診療にて、健康確認や処方を行っている。定期的に訪問看護、必要時には専門病院への受診など行い、必要な医療を受けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の健康状態に異常があった場合は、土橋病院の看護師に相談し、指示を仰いでいる。また、日々のバイタルや体調などは訪問看護師に確認してもらい、必要なアドバイスを受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の相談員や医療関係者との情報交換を密に行い、治療状況や入院の期間などの把握を行っている。相談員などとは名刺交換等を行い関係作りに努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や当施設での看取りに関する指針を作成して入居時に説明している。終末期の利用者には身体状況、ホームで行える支援を主治医や家族と話し合い関係者と連携を図り支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時の対応マニュアルを作成し、フロアに掲示し職員に周知している。職員には普通救命講習を受けるように取り組んでる。基本的に、管理者へ第一報を入れ指示を出す体制となっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の対応については、マニュアルを作成し事業所内研修や入職時研修を行い周知している。また、避難訓練を実施しマニュアルの再確認、消防設備の場所、使用方法の確認を行っている。運営推進会議などで、当法人の災害対策なども報告し、緊急時の協力も依頼している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の性格や生活歴を把握した上で、人格やプライバシーに配慮した言葉使い、声かけや対応を心がけている。入室時には声をかけ、了承を得ている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の意思決定について、認知症があっても選択肢などを与えて意思を確認するなど、自己決定できるように努めている。また、利用者とのコミュニケーションを図り、思いや希望の把握に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	「ゆっくり、やさしく、おだやかに」の理念をモットーに、利用者のペースに合わせた処遇を実施している。入浴や食事の時間などは、ある程度統一させていただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	洋服を本人に選んでもらうなど自己決定できるようにしている。認知症により、整容や更衣ができない方でも、その人らしい身だしなみが出来るよう配慮している。定期的にカットやカラーなどができるように支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備、後片付けなど出来る範囲で取り組んでいただいている。誕生日や行事では個人に合わせたメニューや季節料理を提供している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスのとれた献立を考え、嗜好や病気に配慮した食事の提供を行っている。摂取量や摂取状況を確認して、利用者1人1人に合った食事形態を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、利用者の機能に応じた口腔ケアの支援をしている。不十分なところは、介助にて後磨きを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を使用し、個々の排泄パターンを把握し、トイレ誘導などをおこなっている。基本的に、日中も夜間もトイレでの排泄を行えるように支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	出来るだけ下剤に頼らないように、便通に効果的な食品や食べ合わせ、運動等を取り入れている。食事、水分、運動が十分に行えるように心がけ、便秘予防に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入浴の回数や時間帯は、業務の特性上なかなか融通を利かせられないのが現状だが、個々の要望に出来るだけ答え、ゆっくり時間をかけて入浴支援を行ったり、足浴や清拭を行い、満足感を得られるように努めている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は個々に合わせている。就寝時の明かりの調整や温度調整は個別に配慮している。眠れないときには、傾聴し安心できるように声かけを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師の居宅栄養管理指導を受け、服薬に関する留意点などの把握を行っている。また、薬の作用、副作用を確認しやすいように、直近の説明書を記録ファイルに綴っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事動作などを取り入れ役割を持てるように支援している。集団レクリエーションの時間を設け、利用者が楽しめる企画を随時考え実施しているが、参加は強制していない。居室で自由に過ごす時間も尊重し、それぞれに合った時間を過ごしてもらっている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	散歩やゴミ出し、リハビリなどを通して日常的に外出場面を設けている。月に1回程度は集団での外出行事を企画し実施している。家族との外出も随時受け入れている。個別外出は、頻度は少ないが個々の要望に沿って、中央駅付近や本人所縁の地への外出支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>個人分のお金は、基本的に事務所で預かっている。自分でお金を持っておきたい方に関しては、紛失のリスクもご家族に説明し、認めている。外出支援時には本人の好きなものを購入できるようにしている。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>電話をかけたいとの希望があれば、必要に応じて認めている。また、家族や知人から利用者へ電話が来た場合も繋いでいる。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共同の空間は季節感のある飾りつけをしたり、移動しやすいように物の配置を考慮したりしている。トイレ、浴室などは清潔を保ち、気持ちよく利用できるように努めている。温度調整、光の調整も随時行い、利用者が落ち着ける環境づくりを行っている。</p>		
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>テーブルに個人用の席を用意し、安心して共用空間に居れるようにしている。ソファや空いている席を自由に使えるようにし、独りで落ち着いたり、利用者同士でお話したりできる環境をつくっている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、本人が安心できる空間になるように馴染みの物の持込を積極的に促している。また、家具の配置なども本人が安心できるように配慮している。テレビや写真、位牌など本人にとって必要なもの、安心できるものを個々で持ってきている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の能力に合わせた声かけや介護を行い、利用者が自立し、機能を維持できるように支援している。また、事業所内で介護技術の勉強会や認知症の理解を深める勉強会を行い職員の介護技術の向上にも努め、常に安全面に考慮した、対応や設備を検討している。		



## V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
		○	4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
		○	3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない